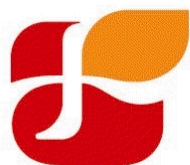




**2019年3月期
決算説明会資料
(2018年4月1日～2019年3月31日)**

2019年5月28日

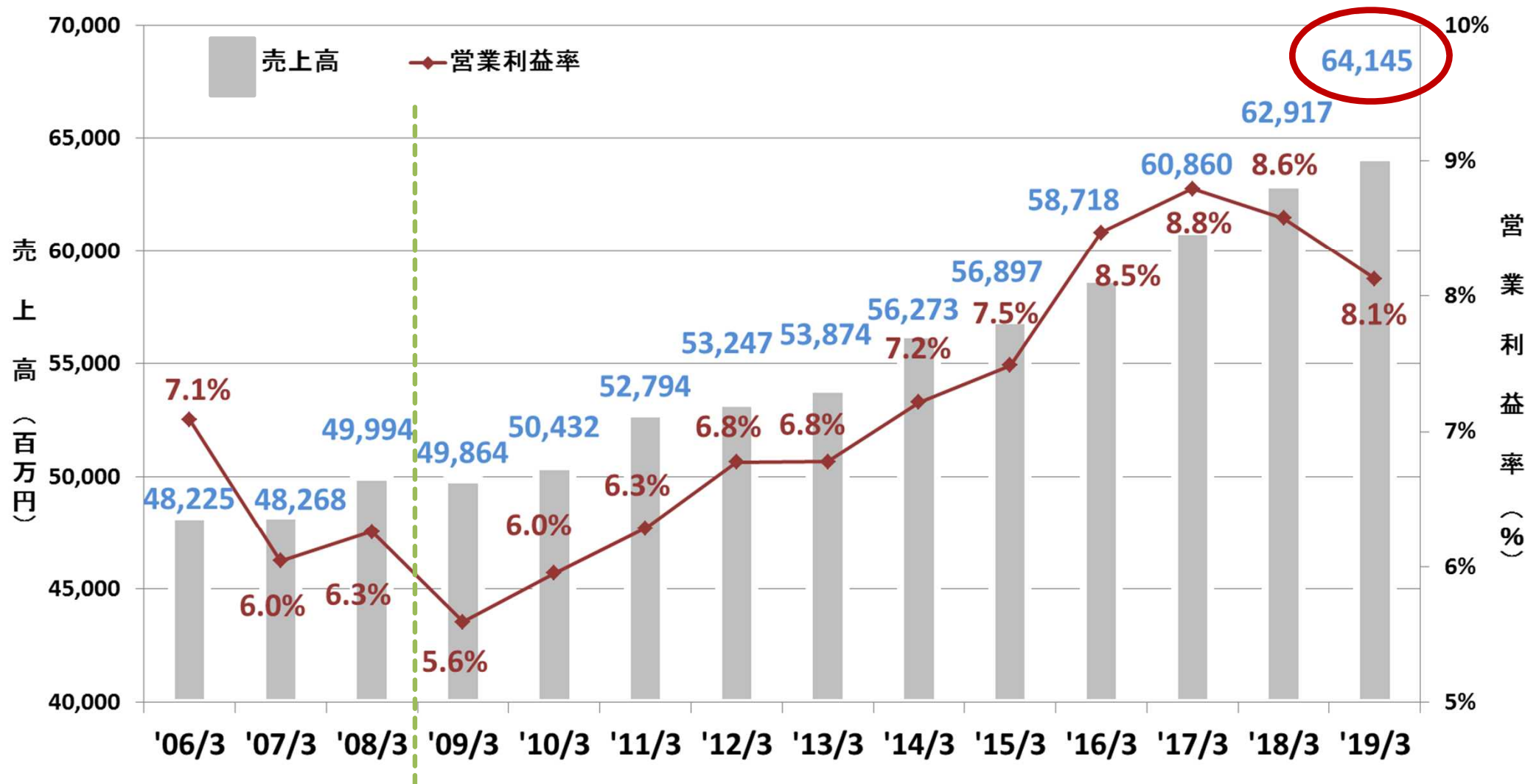


フジッコ株式会社 (2908)

<https://www.fujicco.co.jp/>

2018年度決算の概要

売上高・営業利益トレンド



売上高	48,225	48,268	49,994	49,864	50,432	52,794	53,247	53,874	56,273	56,897	58,718	60,860	62,917	64,145
[前期比]	102.2%	100.1%	103.6%	99.7%	101.1%	104.7%	100.9%	101.2%	104.5%	101.1%	103.2%	103.6%	103.4%	102.0%
営業利益	3,418	2,917	3,130	2,788	3,001	3,319	3,607	3,651	4,061	4,261	4,973	5,352	5,396	5,214
[前期比]	81.7%	85.3%	107.3%	89.1%	107.6%	110.6%	108.7%	101.2%	111.2%	104.9%	116.7%	107.6%	100.8%	96.6%
営業利益率	7.1%	6.0%	6.3%	5.6%	6.0%	6.3%	6.8%	6.8%	7.2%	7.5%	8.5%	8.8%	8.6%	8.1%

連結損益計算書（前期比）



	2018/3期		2019/3期		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	62,917	100.0	64,145	100.0	1,228
売上原価	36,927	58.7	38,037	59.3	1,110
売上総利益	25,989	41.3	26,107	40.7	118
販売費及び一般管理費	20,592	32.7	20,893	32.6	300
営業利益	5,396	8.6	5,214	8.1	△182
営業外損益	331	0.5	332	0.5	0
経常利益	5,728	9.1	5,546	8.6	△182
特別損益	△214	△0.3	726	1.1	941
税引前利益	5,513	8.8	6,273	9.8	759
当期純利益	4,023	6.4	4,189	6.5	165
1株当り純利益 [潜在株式調整後]	134円57銭 [134円42銭]		140円02銭 [139円89銭]		5円45銭 [5円47銭]

※ 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

売上高は増収 . . . 過去最高
営業利益、経常利益は減益
当期純利益は増益をキープ
(投資有価証券売却益を特別利益として計上)

- ◎ 売上高は1,228百万円の増収
- ◎ 売上原価率は59.3%、前期より0.6ポイントの悪化
- ◎ 販管費率は32.6%、前期より0.1ポイントの改善
- ◎ その結果、営業利益は182百万円の減益、
営業利益率は8.1%と前期より0.5ポイントの悪化
- ◎ 経常利益は182百万円の減益
- ◎ 当期純利益は165百万円の増益
投資有価証券売却益の特別利益計上、法人税等の増加
- ◎ 1株当り当期純利益は140円02銭、前期より5円45銭の増加
潜在株式調整後1株当り当期純利益は139円89銭

四半期会計期間の売上・営業利益の増減推移（前期比）



(単位：百万円)		売上	営業利益	営業利益率
第1 Q (4 - 6月)	前第1 Q	15,227	1,124	7.4%
	実績	15,340	1,048	6.8%
	増減	+113	△76	—
	前同四半期比	100.7%	93.2%	—
第2 Q (7 - 9月)	前第2 Q	15,220	1,177	7.7%
	実績	15,724	1,274	8.1%
	増減	+503	+96	—
	前同四半期比	103.3%	108.2%	—
第3 Q (10 - 12月)	前第3 Q	17,896	2,094	11.7%
	実績	18,177	1,935	10.6%
	増減	+280	△158	—
	前同四半期比	101.6%	92.4%	—
第4 Q (1 - 3月)	前第4 Q	14,572	1,000	6.9%
	実績	14,903	956	6.4%
	増減	+330	△44	—
	前同四半期比	102.3%	95.6%	—

(百万円)	前期 実績	構成比 %	当期 実績	構成比 %	前期差	前期比 %
惣 菜 製 品	20,064	31.9	20,989	32.7	924	104.6
昆 布 製 品	17,619	28.0	17,746	27.7	126	100.7
豆 製 品	14,063	22.4	13,980	21.8	△83	99.4
ヨーグルト製品	6,391	10.2	6,803	10.6	412	106.4
デザート製品	3,359	5.3	3,256	5.1	△103	96.9
そ の 他 製 品	1,418	2.3	1,370	2.1	△48	96.6
合 計	62,917	100.0	64,145	100.0	1,228	<u>102.0</u>

◎プラス品群（前期との比較）

包装惣菜	+515百万円
蒸し豆	+429百万円
日配惣菜	+409百万円
カスピ量販	+338百万円

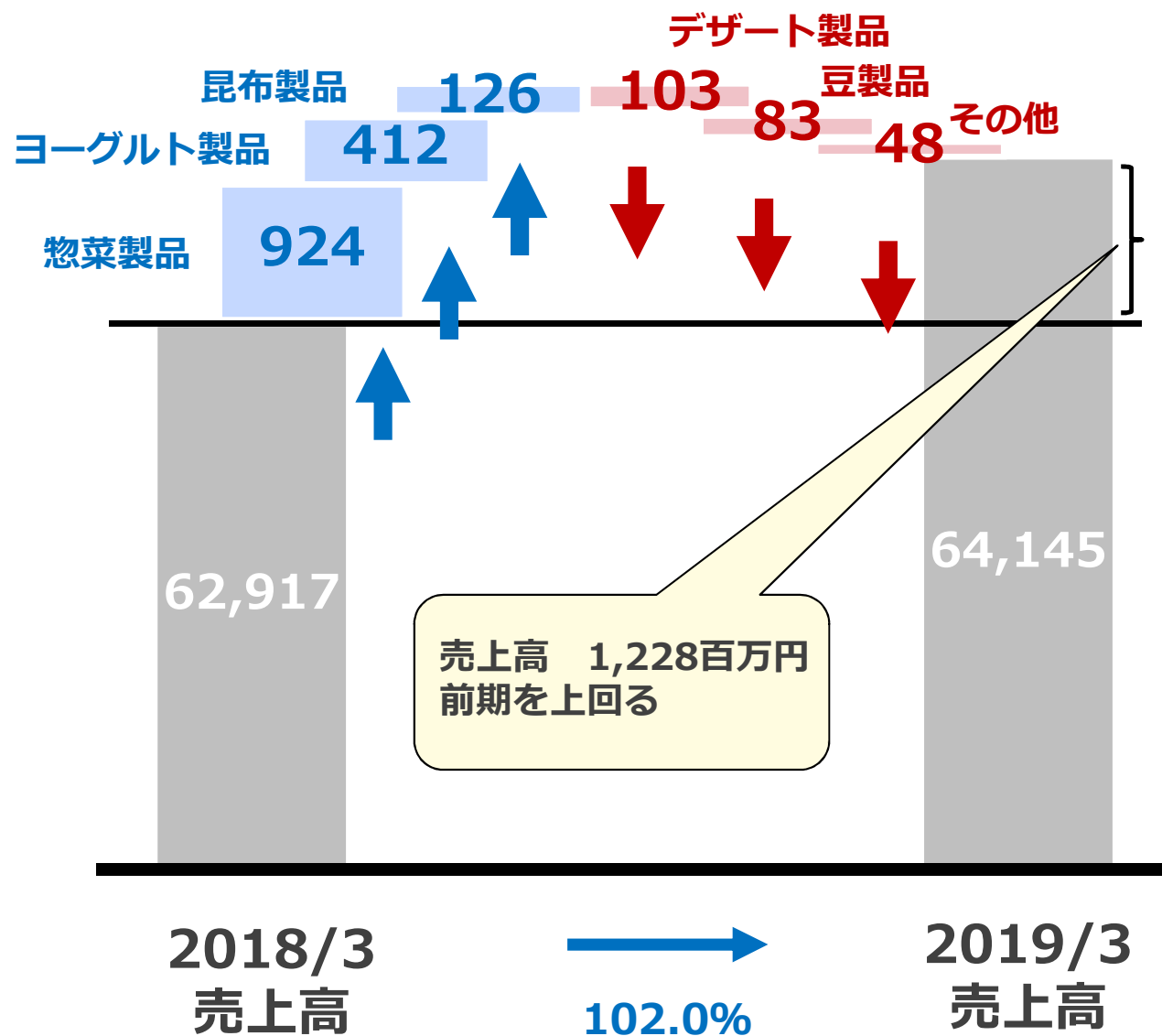
×マイナス品群（前期との比較）

煮豆	△464百万円
デザート	△103百万円

売上高の増減要因分析（前期比）



単位：百万円



【総括】

デザート製品、豆製品が前期より下回ったが、惣菜製品、ヨーグルト製品、昆布製品が前期より上回ったことから、全体では前期より1,228百万円上回った

【増加要因に対するコメント】

惣菜製品では包装惣菜、日配惣菜とも伸長

ヨーグルト製品では、量販チャネル「カスピ海ヨーグルト」、通販チャネル「善玉菌のチカラ」とともに伸長

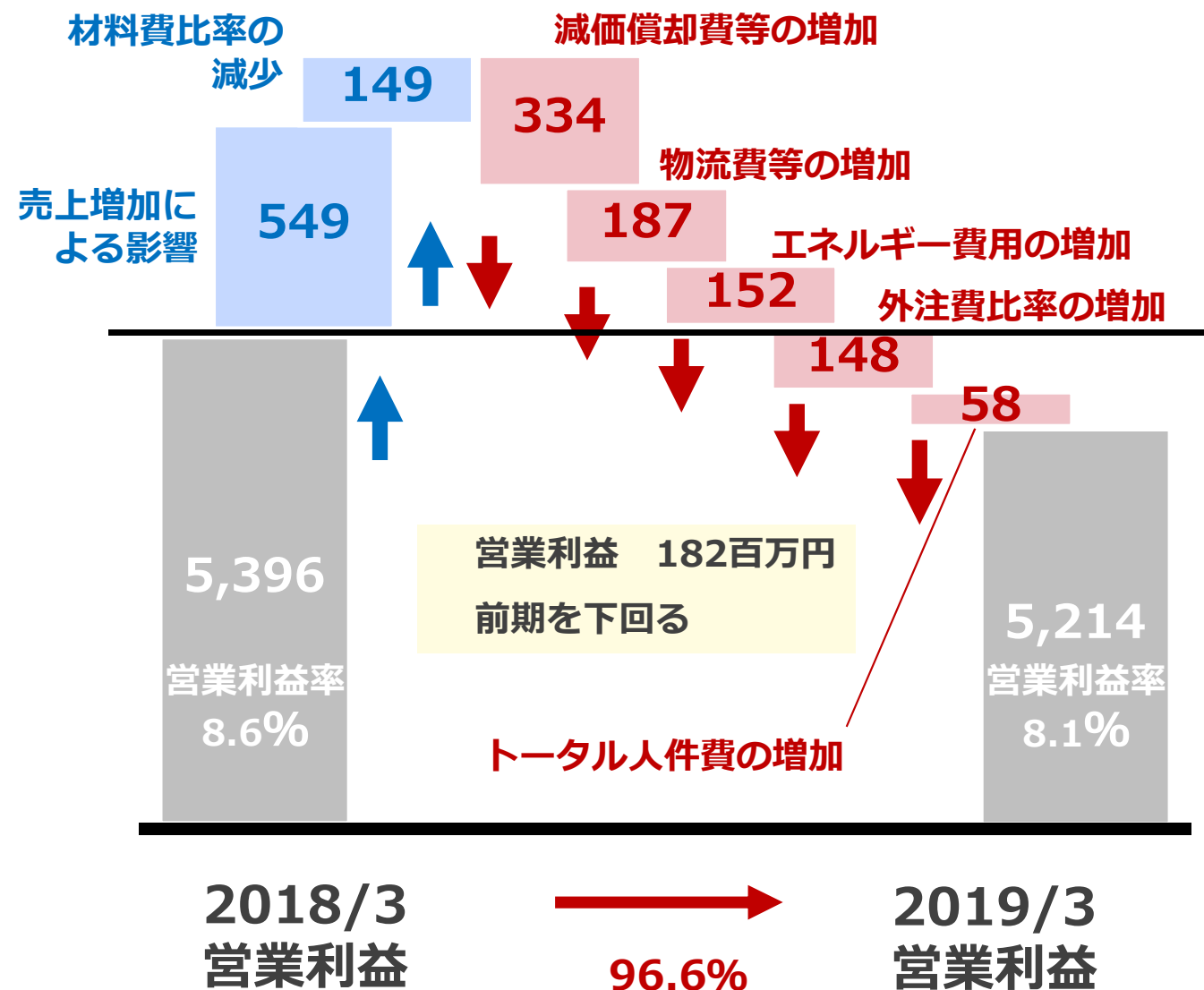
【減少要因に対するコメント】

豆製品は、煮豆の減少分を蒸し豆の伸長で補うことができず

営業利益の増減要因分析（前期比）



単位：百万円



【総括】

営業利益の減少は、販管費率は改善したものの、売上原価率は前期より悪化したため

売上原価率の上昇は、材料費比率は減少したが、減価償却費、製造人件費、エネルギー費用等の増加を補うことができなかった

【増加要因に対するコメント】

- ・材料費比率の減少は砂糖及び惣菜製品の原材料の単価改善等による

【減少要因に対するコメント】

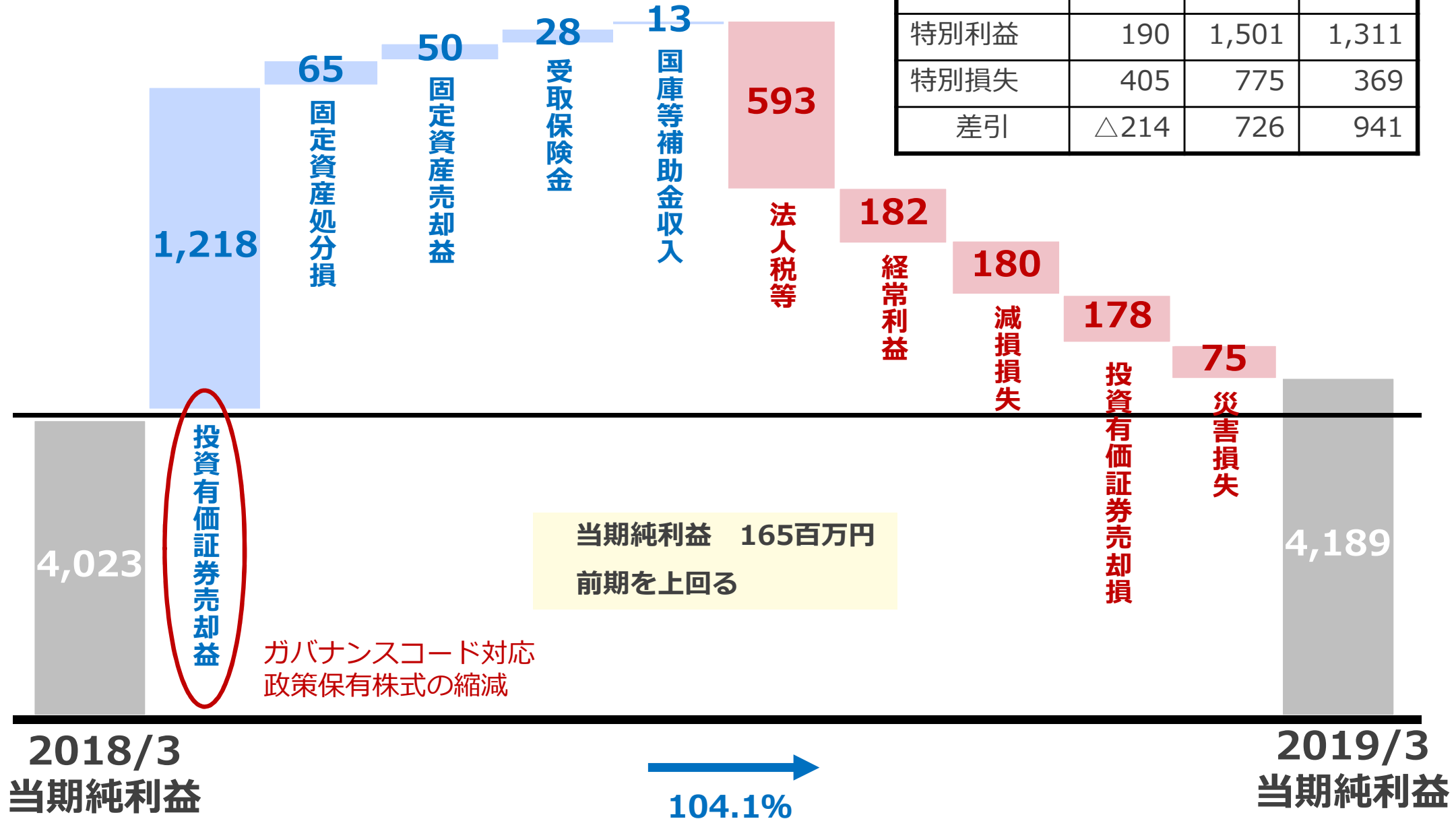
- ・減価償却費の増加
- ・製造人件費の増加
- ・エネルギー費用の増加
- ・物流費の増加

当期純利益の増減要因分析 ～ 特別損益の比較 ～



単位：百万円

(百万円)	前期	当期	前期差
特別利益	190	1,501	1,311
特別損失	405	775	369
差引	△214	726	941



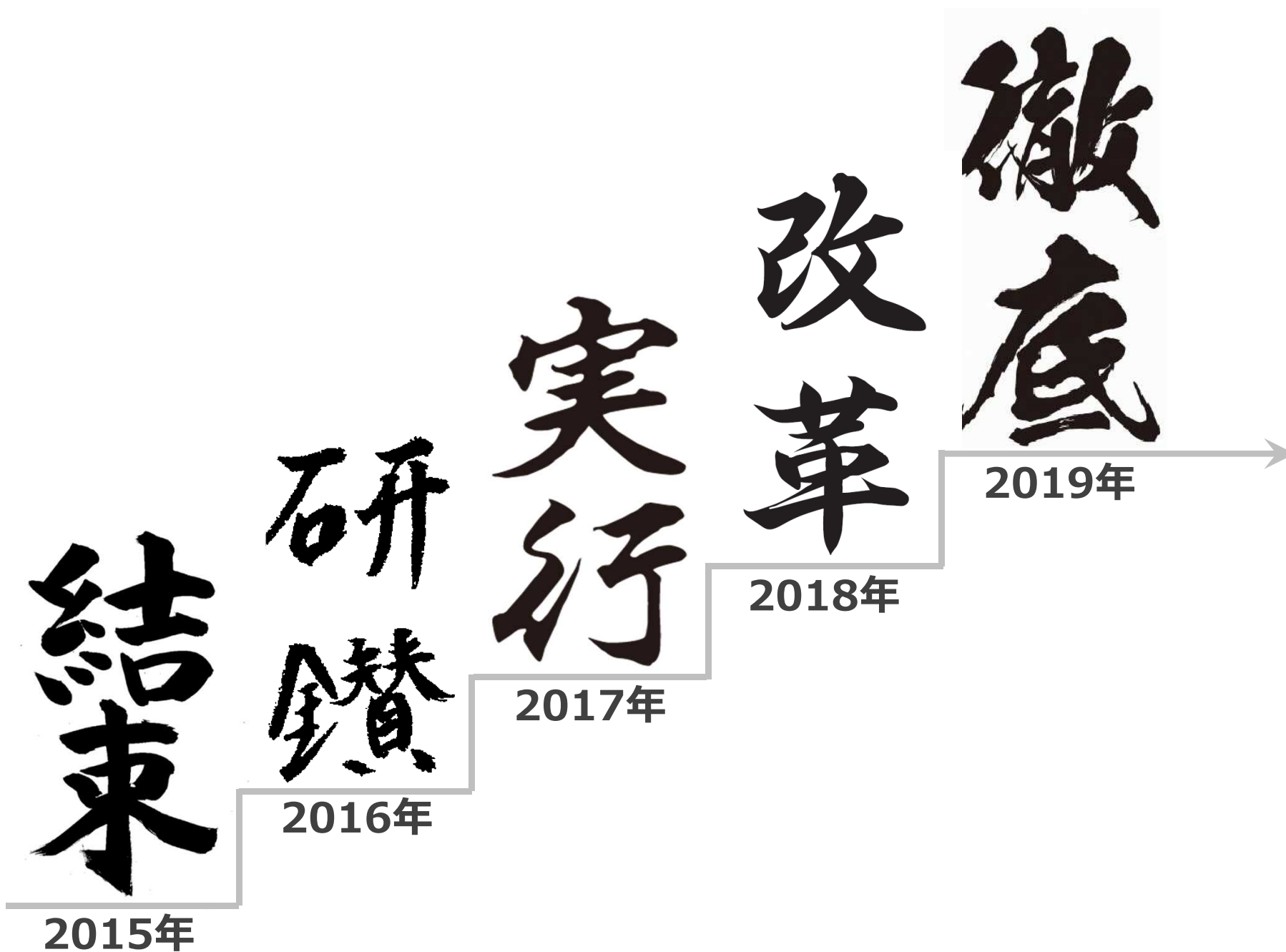
よかった点

- ◎「おばんざい小鉢」の成長が継続（前期より2倍の伸長）
- ◎「カスピ海ヨーグルト」の大幅な伸長（前期比109.5%）
- ◎販管費比率の改善（前期32.7% ⇒ 当期32.6%）

悪かった点

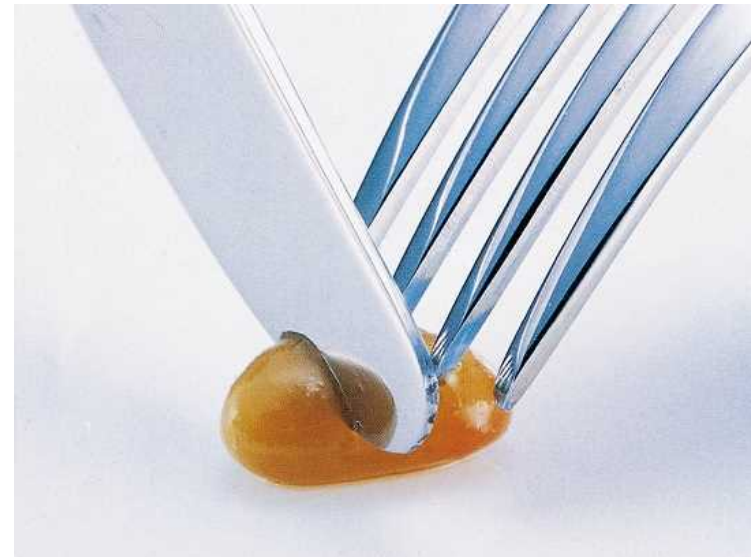
- ◎営業利益・経常利益は減益
- ◎売上原価率の悪化（前期58.7% ⇒ 当期59.3%）
- ◎デザート製品、豆製品（煮豆）の不振が継続

2019年度業績の見通し

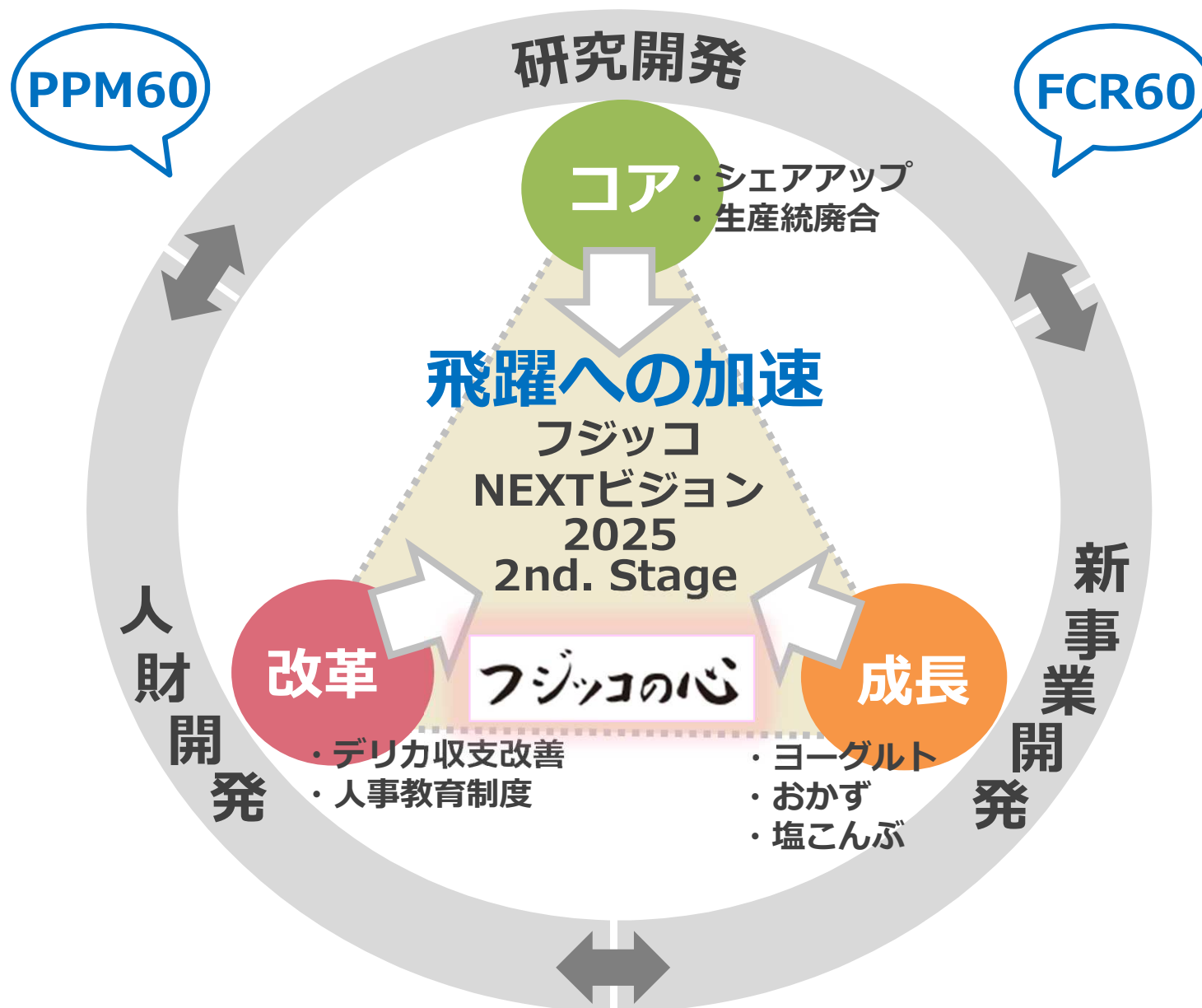


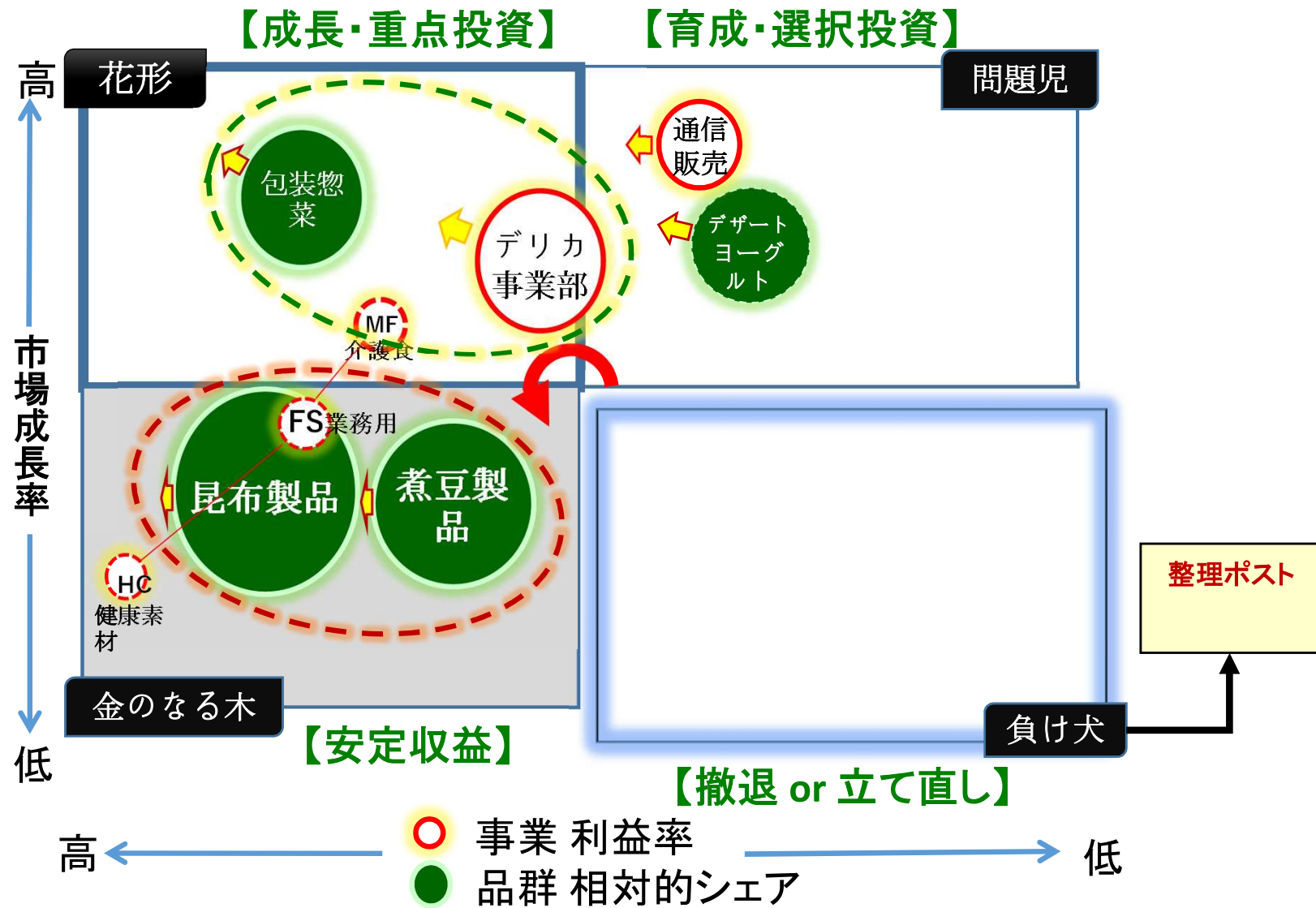
コア事業の再興を

全社一丸で徹底しよう



3つの開発戦略と適切なリソース配分で持続的成長を実現します





蒸し豆から
食べよう

大豆ファースト

食事の最初に「蒸し大豆」から食べることで…

- 👉 1. 中性脂肪の減少を期待できる。
- 👉 2. 糖・脂肪の吸収が緩やかに。
- 👉 3. 豊富な食物繊維を余すことなく摂れる。

詳しくは、「蒸し豆研究会」で検索！

蒸し豆研究会



<https://mushimame-kenkyukai.jp/>



フルーツプロモーション

“ねばり”と“酸味の少ないまろやかさ”



待望の大型新商品 デンタフローラ

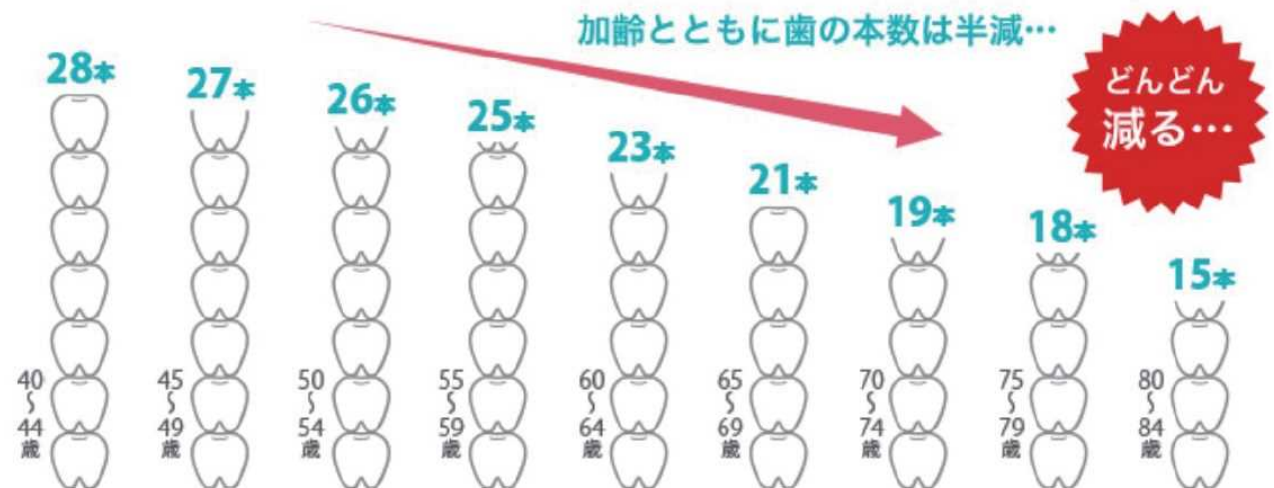
2019年3月 好評発売中

広島大学大学院 二川教授との共同開発



8020運動

80歳まで20本以上、歯を保ってほしい





赤枠内は新商品

小鉢シリーズの躍進

食べ切り

日持ち

美味しさ

ムダなし

佃煮



惣菜



煮豆



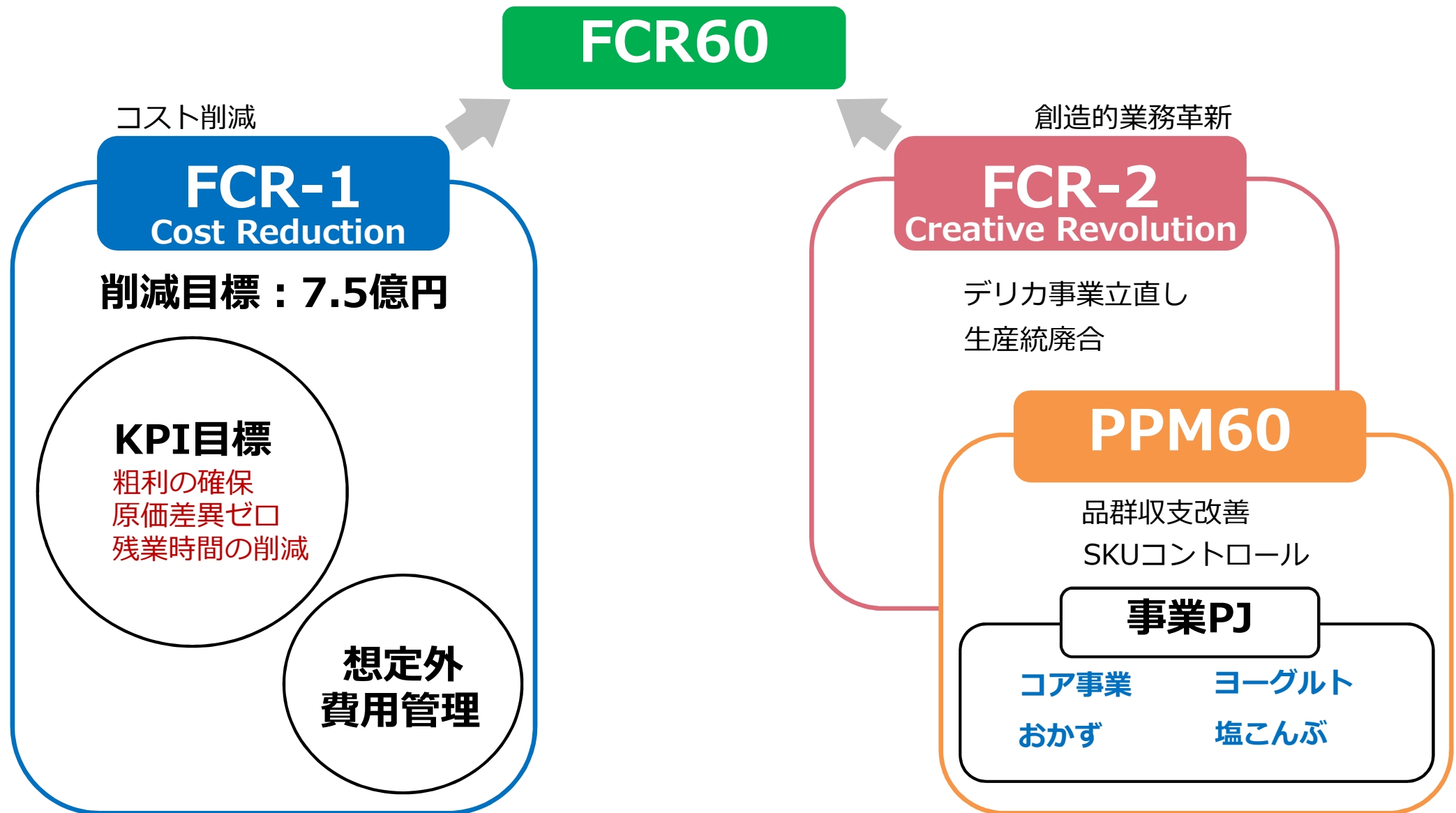
「ふりふり塩こんぶ」の育成

TVCM放映

近畿圏 6月20日～7月20日

新商品「しそ」





(単位：百万円)	2019/3 実績	構成比 %	2020/3 予想	構成比 %	前期差	設定率
惣 菜 製 品	20,989	32.7	21,693	33.4	703	103.4%
昆 布 製 品	17,746	27.7	17,825	27.4	79	100.4%
豆 製 品	13,980	21.8	13,741	21.1	△238	98.3%
ヨーグルト製品	6,803	10.6	7,171	11.0	368	105.4%
デザート製品	3,256	5.1	3,179	4.9	△77	97.6%
そ の 他 製 品	1,370	2.1	1,389	2.1	18	101.4%
合 計	64,145	100.0	65,000	100.0	854	101.3%

取り組み方針

- 惣菜製品 : 包装惣菜「おばんざい小鉢」の販売拡大、日配惣菜の収益性向上
- 昆布製品 : 次世代商品「ふりふり塩こんぶ」「佃煮小鉢」の育成
- 豆製品 : 蒸し豆のシェアアップ、リニューアル「豆小鉢」の再成長
- ヨーグルト製品 : 「カスピ海ヨーグルト」機能性訴求、「善玉菌のチカラ」販売拡大
- デザート製品 : 期間限定商品の投入

連結業績予想



	2019/3期		2020/3期予想		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	64,145	100.0	65,000	100.0	854
売上原価	38,037	59.3	38,350	59.0	312
売上総利益	26,107	40.7	26,650	41.0	542
販売費及び一般管理費	20,893	32.6	21,400	32.9	506
営業利益	5,214	8.1	5,250	8.1	35
営業外損益	332	0.5	300	0.5	△32
経常利益	5,546	8.6	5,550	8.5	3
特別損益	726	1.1	—	—	△726
税引前利益	6,273	9.8	5,550	8.5	△723
当期純利益*	4,189	6.5	3,800	5.8	△389
1株当り当期純利益	140円02銭		126円98銭		△13円04銭

1株当り配当金	38円** (中間19円)	38円 (中間19円)	±0
---------	---------------	-------------	----

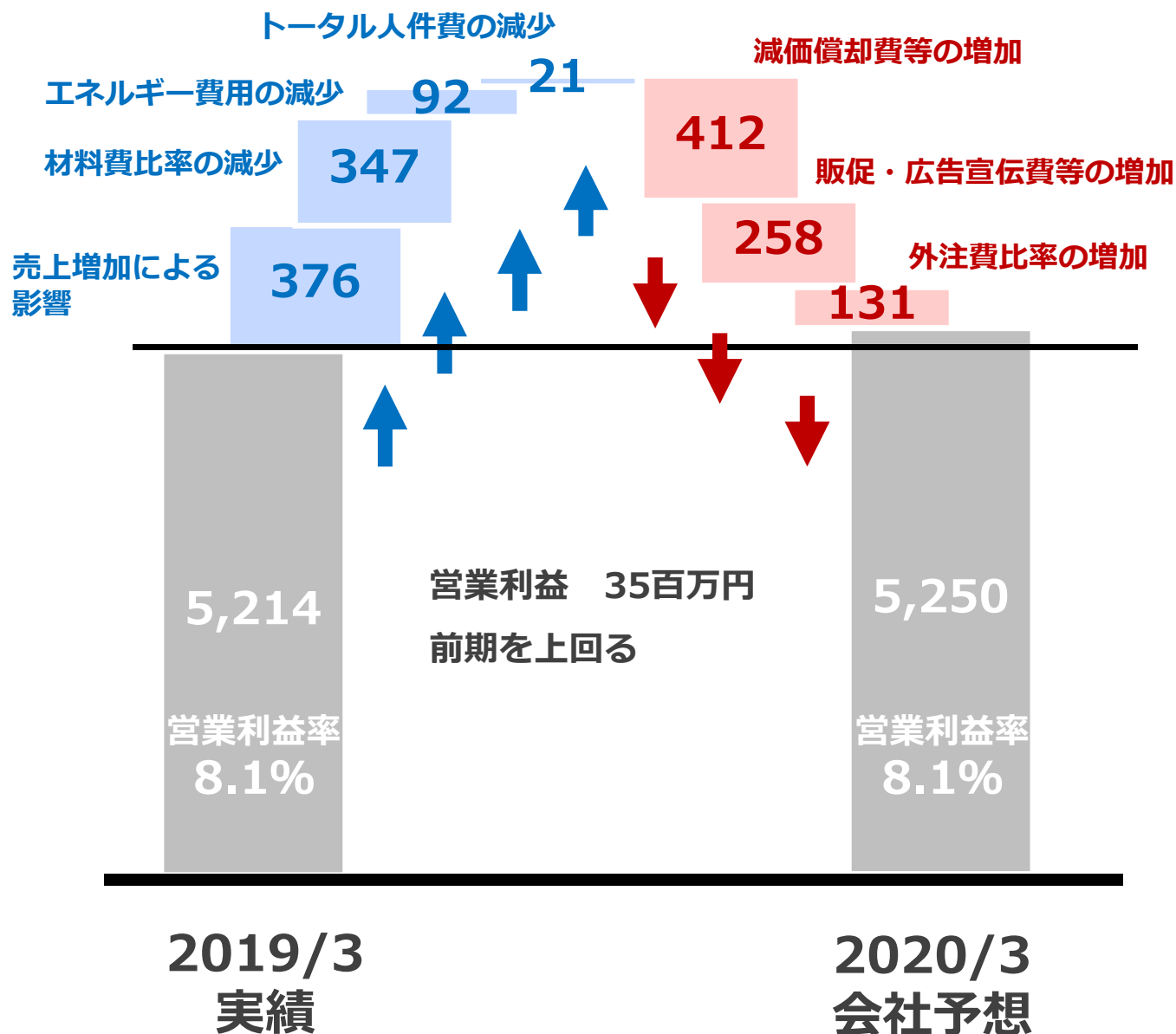
* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

** 年間配当金38円のうち、期末配当金19円は予想。

営業利益の増減要因分析（前期比）



単位：百万円



【ポイント】

① 予想どおりの増収

② FCR-1の推進

- ・ 粗利の確保
- ・ 原価差異の追及

③ 販管費率の改善

- ・ 販売経費の総枠管理
- ・ トータル物流費の低減

設備投資額の推移

(百万円)	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3 計画
設備投資額	2,592	2,278	3,513	7,268	3,638	8,400

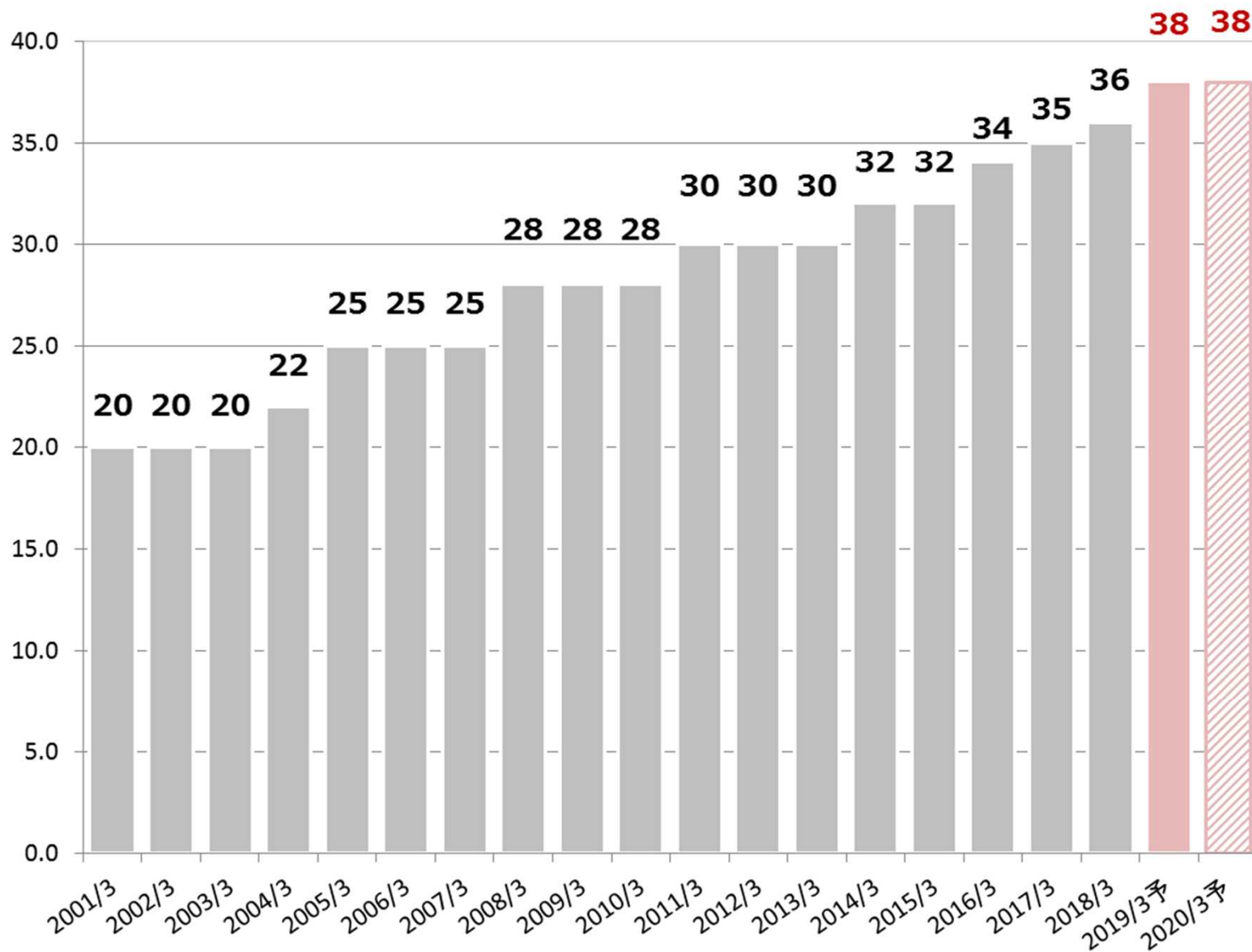
2020/3期 設備投資計画

単位：百万円

投資区分	計画金額
成長投資	5,000
合理化投資	1,400
更新投資	1,900
合計	8,400

安定配当を継続

一株当り年間配当金(円)

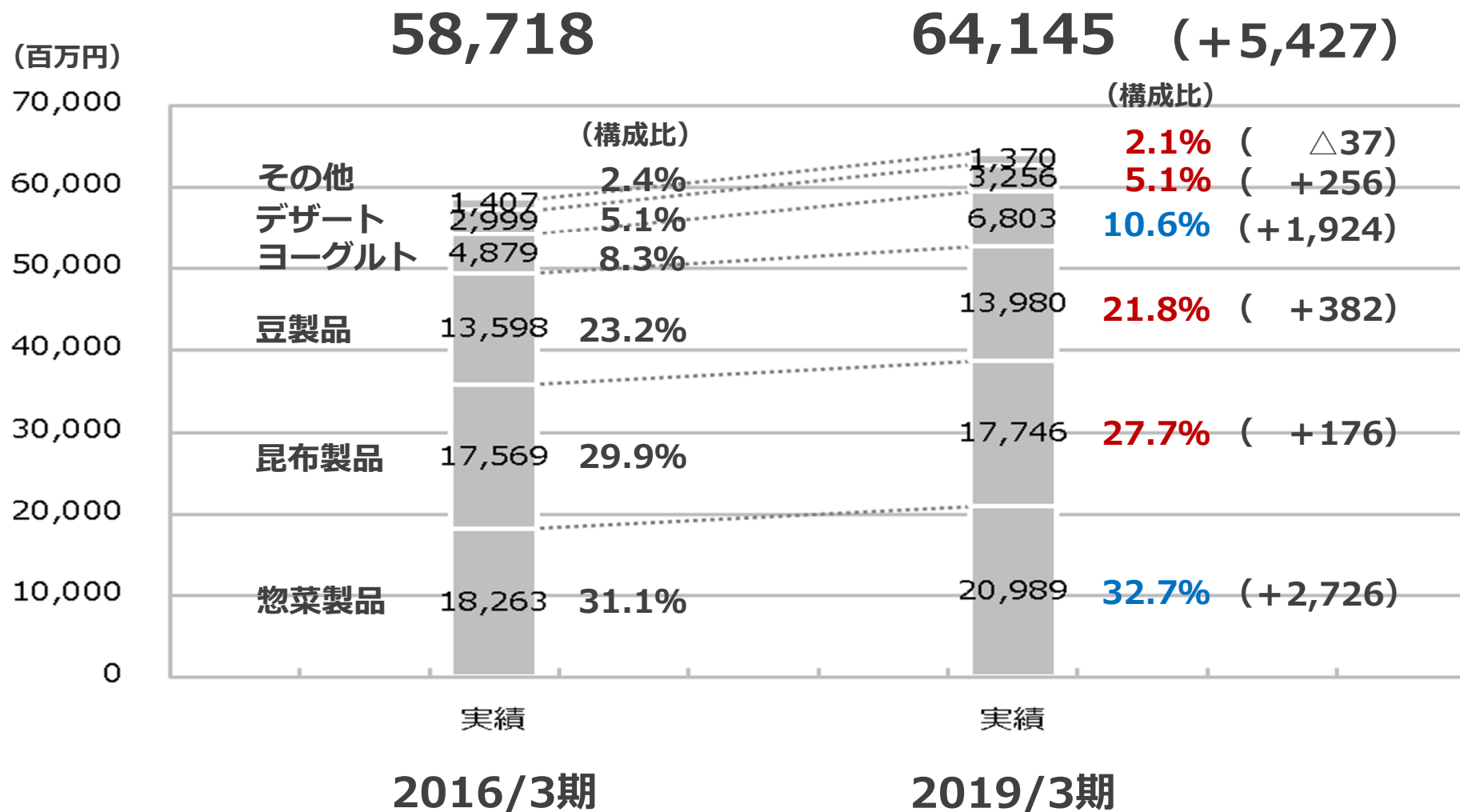


新・フジッコグループ中期計画

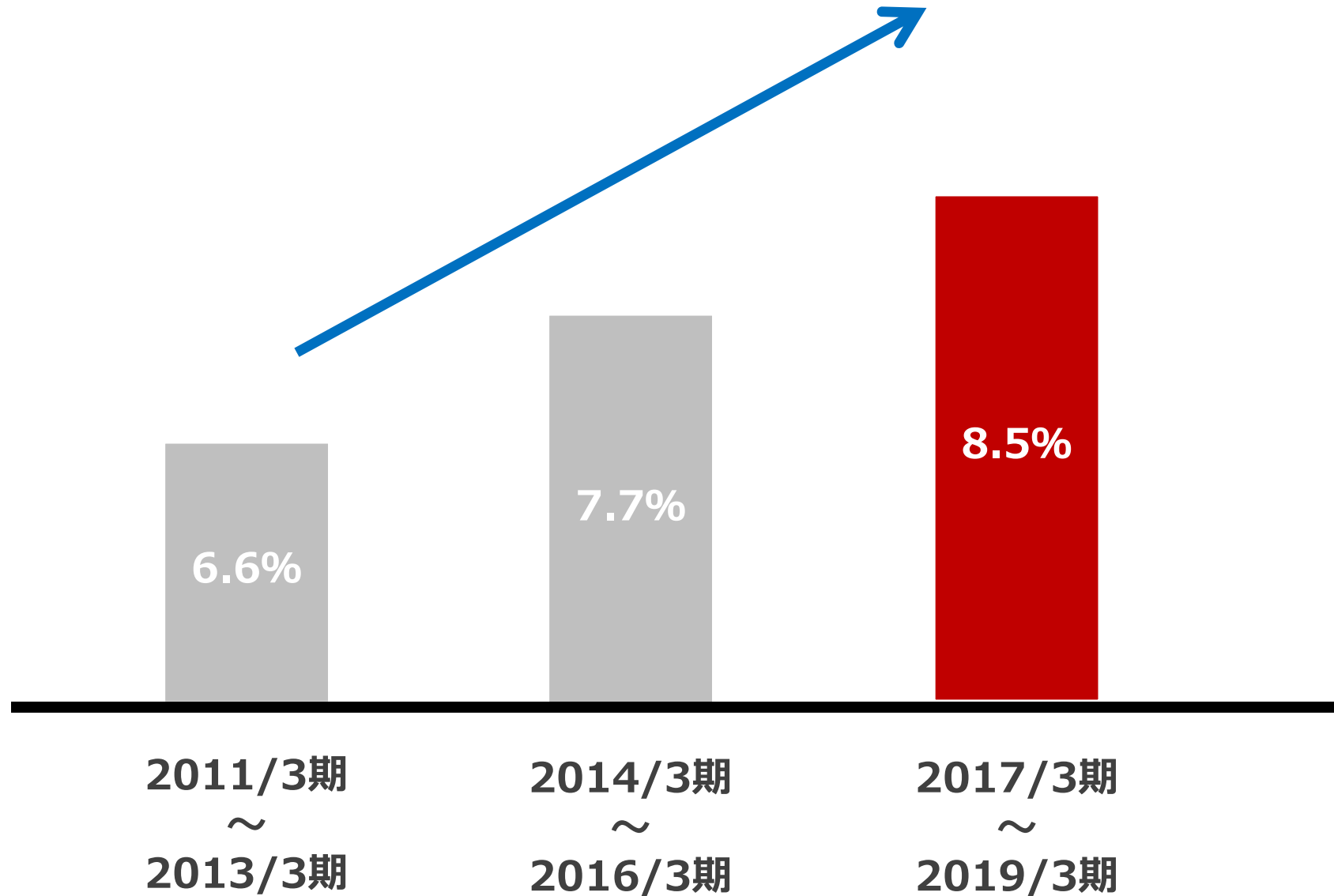
(2019年4月1日～2022年3月31日)

前・中計のふり返し

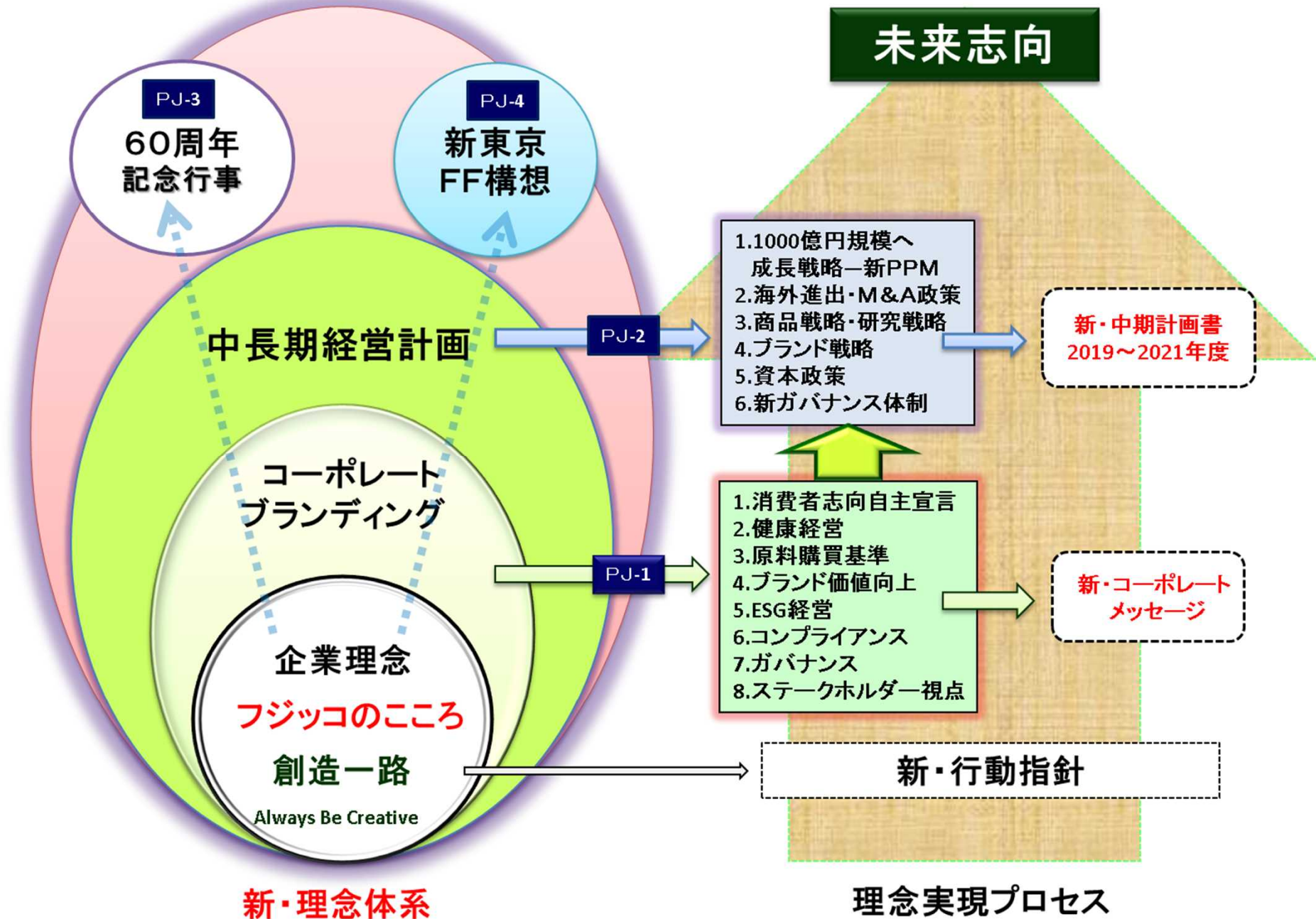
OKAZU事業、ヨーグルト事業の躍進



3か年平均の営業利益率の推移



中期基本戦略



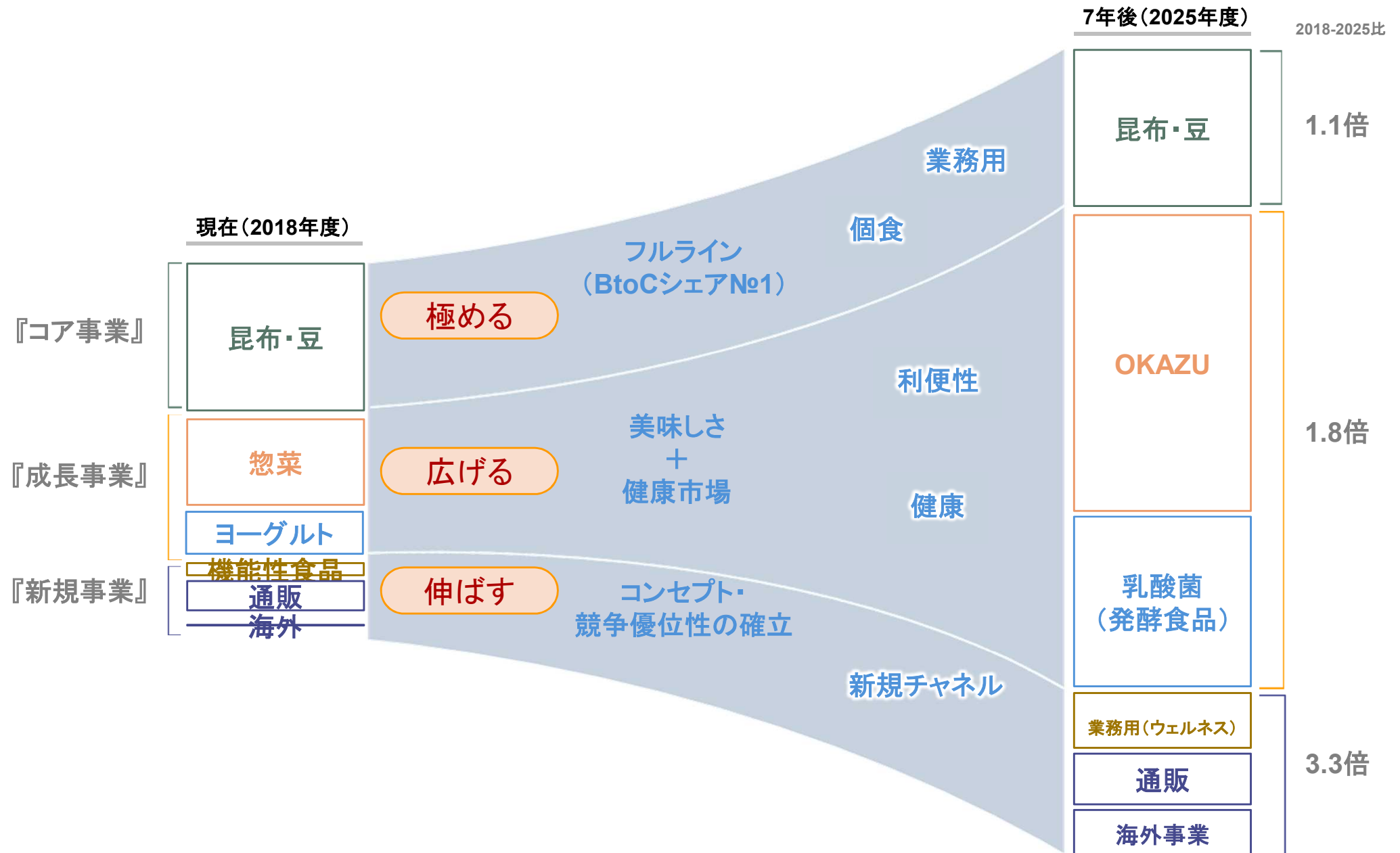


飛躍への加速

昆布・豆の収益基盤を再強化し
さらなる成長へ挑戦する

1. 既存の枠を超える価値創造 新チャネル・新技術・ESG 等
2. 選択と集中
3. 収益力の再強化
4. 研究・開発体制の再強化
5. 人材育成と組織改革
6. 働き方改革の推進

“フジッコNEXTビジョン2025” 事業展開イメージ





未来志向の豆製品の研究開発

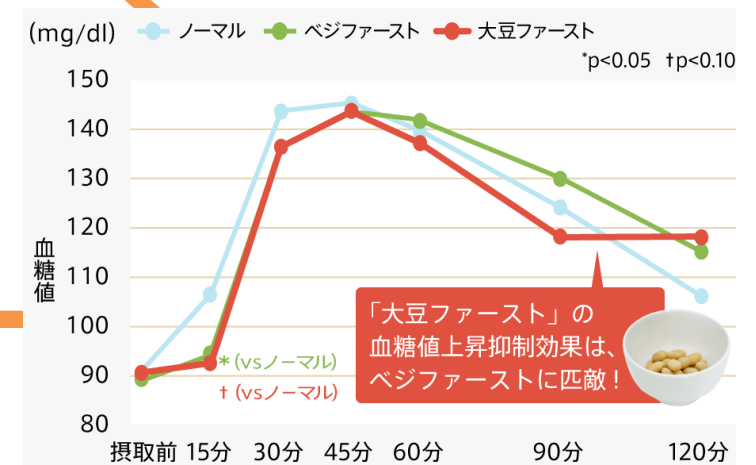


日本の伝統食「大豆」
＋
西洋の健康食「ヨーグルト」

次世代製品



新育種開発



機能性研究



美味しさと日持ちの融合 食品ロス低減へ



日配惣菜

日持ちが1～2日程度の惣菜のこと



包装惣菜

30日以上保存できる惣菜のこと



MAP惣菜*

*Modified Atmosphere Packaging
ガス置換包装のこと

I.

連結売上高：732億円

II.

営業利益率：8.5%(営業利益62億円)

この資料には、当社の現在の業績見通しなどが含まれております。それら将来の予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの予想などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

～ お問い合わせ先 ～

経営推進部	尾西まで
T E L	078-303-5921
F A X	078-303-5949